

甲府市食育推進計画検討委員会 平成30年度第1回会議 議事録

1 日 時 平成30年7月23日(月) 18:30～
場 所 甲府市保健センター プレイルーム

2 出席委員(50音順)

青柳委員、井上委員、隈部委員、小林委員、神宮司委員、須田委員、田草川委員、
武井委員、玉川委員、服部委員、深沢委員、藤井委員、藤澤委員、古屋委員(代理)、
松谷委員 15名

3 欠席委員

早川委員

4 議 題

- (1) スケジュールと計画の概要について
- (2) 事業の実績・進捗状況について
- (3) アンケートの実施について
- (4) その他

5 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者定員 5名

傍聴者数 0名

6 議事の要旨

議題(1) スケジュールと計画の概要について

議題(2) 事業の実績・進捗状況について

議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

(質問・意見は特になし)

議題(3) アンケートの実施について

議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

A 委員

小学生の対象者、4年生、5年生、6年生と指定した理由を伺いたい。体格や体重のことを考えた上での4年生、5年生、6年生の指定ですか。

事務局

第2次の計画策定時のアンケートの対象者を、4年生、5年生、6年生としましたので、そのアンケートと比較することも考えて、同じ学年の対象者とさせていただきます。

A 委員

近年、4年、5年、6年生で大きな体格差が出てきて、思春期も早く始まってきています。その子どもたちは、全く違うものだと考えて、それを一緒に評価するのは、偏りが出てくると思います。前回と比べるのも必要かもしれませんが、複雑に変わってきている現況を考えると、対象学年を考えた方がいいかと思います。

また、中学2年生と指定していますが、中学2年は個体差があり過ぎます。3年生ぐらいで近づいてくるかと思いますが、いかがでしょうか。

比較して物を言うのであれば必要ですが、ここ2～3年の大きな変化が組み込まれてもいいかと思っています。

事務局

中学2年生については、比較を考えて2年生にさせていただきました。小学生については、自分でしっかりアンケートに回答するというのも考えて、4年生以上とさせていただきました。

子どもたちの状況が変わってきているというところを踏まえて、対象者については検討させていただきます。

A 委員

比較をすることが大事なのか、これからのことを考えることが大事なのかということは、検討によって違うかと思います。

B 委員

今の話で、もう何年か、栄養教諭の先生方の取り組みもあると思いますので、栄養教諭の先生方のご意見も聞きながら、対象者を検討する材料にしたらどうかと思います。

C 委員

この会議に栄養教諭の先生が入ってもいいかと思っていました。現場で一番近い所にいる人たちのご意見を伺いたかった。

食育推進計画の初期に関わらせていただいて、当初は食育を認知させるという大きな目

標がありましたが、そろそろ甲府らしさを持った食育推進計画として、細かいところまで入り込んで、甲府の食育の今何が問題なのかというところです。

山梨県は健康寿命日本一なので、健康との関係で言うと、絶対に「食」が関わっています。栄養調査は県のものはあるが、甲府独自ではないと思うので、その辺もお願いします。健康に関しては、野菜・果物を食べましょうとなっているが、山梨県は果物を食べていません。野菜は食べていますが、この果物が豊富な県で、なぜ果物を食べていないのか、驚きです。食育として、まさにそういうところを分析して、なぜ、果物を食べていないのか、果物を食べてもらうには、どうするか。私もサクランボを食べていませんが、高いから、なかなか食べられない。そういうところから入り込んだほうが、面白いかと思います。

また、山梨県は、食事時間は日本一です。必ず健康と食事時間はつながっていますし、今問題になっているのは肥満、過食の問題で、小学校・中学校は、今数値が悪いです。家庭における食育がベースで、離乳食から始まって、幼児期が重要なのですが、そこから小学校の低学年にかけての食育がないといけません。恐らく家庭の状況を分析すると、大人になっても同じ物を食べているという結果は明らかで、幼稚園・小学校に向けて何をやるのか。栄養は重要ですが、栄養を小さい頃から教えられないので、感覚を教えるとか、五感を使っておいしさを教えるとか、そういう体験をいろいろさせるなど、大きい方向を決めた上で、アンケートはそこからまた生まれてくると思います。

2次計画のその後がどうなっているか知りたいし、それは重要だと思っています。ただ、量は多くなるので、その辺を整理したいのですが、もう少しわくわくするような展開を期待しています。

来年、食育の全国大会が6月に甲府で開かれるということです。甲府らしさを出したいと思って見ているのですが、そういう意味で、アンケートに取り入れられたらと思う。栄養調査や例えば食事時間とか、果物をどれくらい食べているかとか難しいですか。

D 委員

幼児・保護者用アンケートについてですが、2ページ目に、保護者を対象にした設問があります。この辺はデリケートな問題で、幼稚園で配るのは、子どもを対象とした調査だと思います。保護者も一体だという感じは見られますが、子どもだけでよいのではないかと思います。逆に、家族構成については、詳しく書いてもらう必要があると思います。兄弟の数、この対象児が何番目の子とか、上に高校生の子がいて、下に3歳の子たちなど。その辺で、食に関することもかなり違ってくると思います。

また対象児が2歳児から6歳児の500名ということで、もう2歳と6歳では大違いますが、そこは均等に、2歳児、6歳までは同じ人数ですか。第2次の際は、3歳児だった記憶があるのですが、幅が広くて、どうなのかという疑問があります。

事務局

今回は、乳幼児健診でも調査をしたので、2歳からとなっています。対象年齢が広がっているのは、健診の場面も調査対象としていきたい考えがあったからです。

C 委員

対象者の抽出方法ですが、小・中学生が1,000人、小学生が4、5、6年生で、それを平均するところだと見るのか、それとも、ピンポイントに中学生は2年生なので、中学2年生はこういう生活をしている、と見るのか。幼児は2歳から6歳を平均するところ、なのか3歳児はこうだと見たほうがいいのか。委員の皆さまはどうお考えでしょうか。

A 委員

私はピンポイントにすべきだと思います、今後のために。年々変わっていますし、確かに肥満も増えていますが、痩せている子が増えてきています。5年なら5年、3歳なら3歳で、やっていくほうが、形になるかと思います。

前回、『あなたの年齢が何歳ですか』ってどうしたらいいですか』と、アンケートを答えるお母さんから聞かれました。もう一つ、自分の身長、体重をなぜ書くのかと反響が大きかったので、削除の方向で検討した方がよいかと思います。

事務局

意見を参考に、検討させていただきたいと思います。

議長

他にはいかがでしょう。

C 委員

2次の時は、年齢構成はどうだったでしょうか。例えば幼稚園では。

事務局

年齢構成は今、提案しているものと同じです。

C 委員

それとの比較を重視するか、あるいはA委員が言うように、新しい形で見ると。

事務局

基本的に、目標値を設定してしまっていたので、その目標値に対して5年たった今がどうなのかということ考えたときには、ある程度対象者を同じにしたほうがいだろうという判断で、2回目の調査と同じ対象とさせていただいたところですが、今、先生方に意見を頂いて、5年

前と比べると、子どもさんの状況も変わってきているということも踏まえて、悩んでいるところでは。

C 委員

問 25 で、「食事で困っていることはありますか」という設問がありますが、3歳と4歳と5歳でパーセントが違ってくる。だんだん上手になるから、パーセントは減ってくる。そういう意味で、同じもので比較しないと、結果は出てこないということは確かで、どちらを取るかということでは。

事務局

3歳だけで500人となると、多くの幼稚園、保育園にご協力を頂かないと、500人の方にアンケートをするというのは、なかなか難しいところもあります。ある程度年齢層を、幅を持った形で、設定を500人と今までもしていましたので、もしご意見があればいただきたいと思っております。

D 委員

これは500人じゃないといけないのでしょうか。

事務局

ある程度数がそろわないと、統計的にも難しいと思っているところです。回答率を踏まえた中で、やはり対象は500人と考えているところです。

D 委員

例えば3歳児ばかりを500人となると、甲府市のほとんどみんな、かなり多くの割合を占めると思いますが、幅が広いことが、結果として知りたいことが知れるかということ、また変わってくる。

先ほどご指摘のありました問 25「お子さまの食事で困っていることは何ですか」は、2歳児でしたら、むら食いや遊び食べは当たり前のことです。6歳でこれでしたら、やはり悩みになると思われます。本当に2歳と6歳が同じはかりでは、測れないところがあるかと思うので、検討していただければと思います。

事務局

細かい集計としては、例えば3歳の回答者がどういうことかというクロス集計もしますが、そうすると、今度は人数的にどう配分するかという、細かい問題も出てきますので、今まで頂いた意見を参考に、幼児の方も、対象年齢をどうするか検討したいと思っております。

B 委員

幼児ですが、2歳児から6歳児は、人数が平均されますか。平均されるとすれば、2歳児だったらむら食いがあるけれども、月齢が進むに従ってこういう傾向があるので、この時点からは早食いが始まるので、もう少し早く教育をすとか時系列を見ることもできるので、2歳から6歳を一緒にしてしまうのではなくて、年齢別に変化を見るということだったら、意味があるのかもしれない。

議長

ちょうど平均的に、各年代100人ずつぐらいということではないかと思いますが、他にはどうでしょうか。焦点の当て方によっても、かなり対象が変わってくると思います。

高校生も対象になるかと思いますが、16歳から18歳の350人は具体的にどのように対象とするかを教えていただけますか。

事務局

16歳以上の市民につきましては、無作為で抽出をさせていただきます。

議長

前回は16～19歳の人数が非常に少なかった。77人というデータでしたので、無作為にしても、高校の方からではなく、他の住民の方と同じ形なのでしょうか。

事務局

高校が全県一区になってしまったので、甲府市民の方を対象となると、高校にお願いをしてということがなかなか難しいので、16歳から18歳も、住民票のある方を無作為に抽出させていただき、個人に通知する形での調査としています。

議長

アンケートの内容について、何かございますか。あるいは、追加の項目をお考えの方がいらっしゃいましたら、ぜひご発言をお願いいたします。

E 委員

回収率と、男女比と、高校生の場合は、スポーツしている、していないで、食事の内容はかなり違うと思いますが、その辺のバランスは、どう考えてアンケートの配布をするかということをお聞きしたいと思います。部活とか、環境によってかなり違うと思います。

事務局

抽出段階では無作為ですので、そこは考慮せずに抽出します。男女は半々で。前回、一般は、1,900人中、713人で回収率が37.5%となります。

A 委員

16歳から18歳までの意見、本当は、ここに一番力を入れてないといけない学年だと思うので、無作為でやるとしても、何か工夫がないと。何か工夫していただくか、SNSがあつて、もし回収できるなら、そのほうがアクセスはあるかと思います。検討していただきたい。

事務局

可能かどうか、確認をしてみます。

E 委員

同じような質問ですが、前回の高校生は250人に対する回収率が37.5%ですか。

事務局

全体です。

E 委員

全体が37.5%で、高校生の家に送られてきて、その回収率というのはどれぐらいでしょうか。

議長

16～19歳の全体だと、250人の対象人数に対して、回収数が77で、回収率が30.8%ということになっています。

若い方の回収率が非常に低いということがあります。他にはいかがでしょうか。

F 委員

気になっているのが、一般市民の方の、問3ですが、これは、前回にもあった設問でしょうか。「あなたは日頃から健全な食生活を行うために何らかの食育に関する活動をしていますか」という設問です。

事務局

前はなく、県の方で調査をしていますので、今回から追加しました。

F 委員

私自身がやってみたときに、「何らかの食育に関する活動」と書いてあったので、自分が何かをしたと捉えて問3は答えましたが、問4にいくと、本当に個人的な部分が入ってきていますので、問3はなくして、「実践していることはありますか」と具体的に聞いてしまう方が答えやすいと思いました。

さらに1番で、「自分にとって望ましい食習慣を理解」とあり、自分の思い込みで、いいのか

と思います。例えば「健康に留意した食習慣の実践」は、実際にやっているというところが分かる書き方のほうがいいかと思ったので、問3が一番気になったところです。

また、問14「健康づくりの観点から、飲食店などにどのようなことを望みますか」で、ここに禁煙が入らないのは、食育推進に禁煙を入れてはまずいということでしょうか。

事務局

禁煙について入れることは、まずくないと考えていますが、今、健康増進法も改正された時期ですので、追加するか検討させていただきます。

議長

一番健康に影響するのはたばこだと思いますので、その辺は、入っている方がむしろいいかと、啓蒙の意味でもと思いました。ご検討いただければと思います。

あと問29と30ですが、先ほども果物の値段が高いという話がありましたが、選択肢に価格が入っていない理由がよく分かりません。価格のことを聞かなくていいのかと思ったのですが。これも前回あった設問でしょうか。

事務局

これも、県に合わせた設問になっていますが、特に価格について追加しても、差し支えはないかとは思っています。

議長

それと、原産国が国内か外国かという聞き方が、国産なら国産というふう限定した方がいいと思います。中途半端な聞き方だと感じました。

国産と思って選ぶ方が、消費者としては多いか、気にしないか。国産と気にするかという問題のような気がします。

問45の7「食事の正しいマナーや作法などの知識の習得」とありますが、マナーと作法は同じ意味なので、どちらかでよいのではないのでしょうか。「正しいマナーなどの知識の習得」でよいかと思ったので、ご検討いただければと思います。

E 委員

問43、44ですが、公民館という言葉がありません。公民館では地産地消であったり、甲府市でいくと直売所に隣接している公民館では、食育の料理教室等も開催していますから、その情報発信源であると思うので、ここに記載してもいいかと思いますが、いかがでしょうか。

議長

またご検討いただくということで、他にはいかがでしょうか。

A 委員

問 43、44 ですが、丸が 3 つまでの根拠は何ですか。

事務局

3 つ挙げるとしたらどこかというような選択にしましたが、特に 3 つまでという根拠はないので、限定しなくてもいいです。

議長

他にはいかがでしょうか。

G 委員

先ほど出ました、国内か国外かという部分で、誰もが皆、国内の物を買いたいという気持ちは持っています。ところが、実際に価格面が、物によっては例えばタケノコで言うと、水煮なんかは国産と国外では全然違いますし、そういう価格面でやむなく国産を買えないという記入欄があってもいいと思います。

ウナギもそうですが、国産と中国では値段が違いますから、そういう意味で、皆さんも国産を食べたいけれども、実際は高いから買えないというようなコメントを書く欄があってもいいかと思いました。

議長

具体的に文章を入れた方が、本当のところ分かる。

G 委員

健康ということで、私たちの業界では 1 日 28 品目が非常に体のバランスがいいとしています。品目数が多ければ多いほど栄養バランスが良くなるということなので、品目数を 1 日どのぐらい食べているのかということも含めて、皆さんの家庭によって違うと思うので、質問事項にあると面白いと思いました。

B 委員

品目数は、今はあまり言わなくなりました。30 品目摂ると、エネルギーが上がってしまいます。食事バランスガイドなどを勧めていて、主食、主菜、副菜というように勧めているので、食品数が多いからという判断は、今はあまりしなくなりました。

E 委員

問 9 「食事を決まった時間に食べていますか」ということですが、夕食の時間は、夜遅い時間であっても、決まった時間に食べるのがいいのかということがあります。私も文章的にどういう設問にしたらいいかは、浮かばないのですが、その辺を拾えるといいかと思います。いか

がでしょうか。

事務局

どこまで細かくというところが難しいところですが、そこも踏まえて検討させていただきます。

B 委員

問 43 「体に良い食事を取るための情報」ですが、甲府市民だったら、大手の会社にお勤めの方もいらっしゃると思うので、職場からの情報というのも、これから、職場からどんどん発信していただきたいと私も思っているのですが、職場からどのくらい情報を得ているか、知りたいと思いますが、どうでしょうか。

H 委員

私どもも、今、健康経営の中に、手を挙げてくれる企業を募っているところで、そういう意味では、社員の健康という情報を、積極的に発信していこうと考えておりますので、入れていただければと思います。

4 ページの問 6 「あなたの体格はどれに当てはまると思われますか」とありますが、例えば太っている人に、あなたはなぜそうなってしまったか、自覚している理由を尋ねるというのも、かなり本質を突いているのではないかという気がします。これは、痩せている方も同じです。

それと、適正体重を知っているかという質問が次にありますが、「適正体重は何キロですか」という設問を 1 つ設けて、適正体重の求め方も参考に入れておけば、このアンケート自体が参考になると思います。

問 9 「食べないことが多い」と選択できるようになっていますが、なぜ食べないのか、過去にも、「朝食を食べない理由は何ですか」と聞いていますので、食べない理由を個別に選んでいただくようにすれば、本質に近づけるかと思えます。

事務局

食事の情報につきまして、食育との連携は必要になってくると思いますので、職場からの情報があるかどうかというのは、追加できるか検討させていただきます。

また体重の部分、朝食を食べないことが多いということがなぜかというところですが、回答数が少なくて、なかなかアンケートの中でそこまで調べるのが難しく、どこまで踏み込めるかということも、意見を参考に検討させていただきます。

I 委員

小学生用、中学生用の 4 ページ、問 9 「外食、中食はどのぐらいしていますか」ということで、中食で昼食が週 1 回以上とありますが、小中学生は基本的に給食ですので、例えば夏休み中にこのアンケートが配られれば、「お母さんがいないから、いつもお弁当を買っているよ」と

と思いますが、学校がある時に配られたら、子どもは毎日給食を食べていると思います。

私は給食のことを主にやっていますが、昨年度も、母親委員会の委員の子ども対象に、小中学生に給食についてのアンケートを採りました。その時は、昼食は給食ということで、「昼食」は外しまして、「外食をしますか」としました。「給食が休みのときに限る」という文言を入れました。4年生と6年生では、言葉の理解力が全く違うと思います。中学生になると、理屈っぽくて、大人もびっくりするような回答が、欄外にいっぱい書かれていますので、給食が前提ということで質問した方がいいのではないのでしょうか。

事務局

参考にさせていただきます。

議長

他にはいかがでしょうか。

F 委員

一般の9ページの間27で、「作ってみたい郷土料理や行事食はありますか」とあるのは、新たにという意味ですか。それとも、今作っているが、今後もということを含めた内容と捉えればいいのでしょうか。

事務局

はい。

F 委員

今後作ってみたい、だと今まで作っていないかと捉える。

事務局

それでもいいですし、今も作っていて、今後も続けて作りたいとしても構わない。

F 委員

答えがずれるのではないかと思いました。同じ質問を小学生、中学生だと、作ってみたいと言われると、すっとくるのですが、大人が言われるとどうだろう。目的がよく分からなかったです。

事務局

継承したい料理ということを確認したいというところもあります。

F 委員

とすると、それをそのまま書いていただいた方がいいと思います。今後も継承していきたいというように。子どもに聞く内容と、大人に聞く内容で、違うのは、良くないでしょうか。

事務局

子どもさんの場合は、基本的に料理をしていないので、体験としてどんなことを作りたいかという判断でいいと思います。大人の場合は、伝統というか、継承していきたい料理ということも踏まえた中で、判断をしていきたいと思いますので、設問の表現については、検討させていただきます。

議長

他にはいかがでしょうか。まだご発言のない方々でございましたら。

議事（3）については、終了します。

議題（4）その他

議長

意見・ご質問がありましたら、お願いします。

C 委員

食育推進にあたっては、学校・保健所・保育所・幼稚園の役割が大きいということは、うたっています。乳幼児期から学校や保育所・幼稚園で、規則正しい食習慣を身に付けたり、食に関する知識を学ぶ場として重要です。

10年間やらせてもらいましたが、実際問題として、学校現場が忙し過ぎる。授業のコマを頂いて健康教育を行うことが難しく、学校教育の場、学校保健の中でも、管理の問題から教育の問題にシフトしてきているので、子どもたちにいろいろ教えたいことがあります。けれども、現実問題として、私たちは給食の時間を利用して、何とか展開させてもらっています。今後、放課後児童クラブで、健康教育を行う予定になっていますが、ぜひ学校現場の状況を教えてください。

実際に、われわれがこの健康教育に出向いていく時間が、なかなか取れないのが現状だと思うし、そうだとしたら、ここにあるのは絵に描いた餅です。学校の先生もいらっしゃるので、お聞かせ願いたい。

J 委員

学校現場はいろいろなところからいろいろな依頼がありますが、やはり食に関しては、子どもたちがこれから生きていくために、健康でなければ、自分のしたいこともできませんので、本当に重要項目の1つだと思います。

学校の方でも、給食の時間、食べている時間に放送で、今日の食材についてや、郷土料理に

ついて、そういった説明は、市の方で原稿を作っていただいて、その時間に放送して、子どもたちに意識を高めてもらうということもしています。

本校の場合は、栄養教諭がいなくて、月に3回ほど来ていただいています。本来であれば、子どもたちの前に立って家庭科の時間とか、国語でも教材によって、そういった授業をしていただいたり、保健体育の時間でしていただいたりということが、本当に大切なことだと思います。

私が前にいた所は甲府市ではなかったのですが、栄養教諭の先生が進んでそういった授業をされたり、あるいは保護者の方を呼んで、給食紹介を自分で作ったパワーポイントで説明したりということが、積極的にされていました。

子どものうちから食べること、食に関する知識を持たせていくということは、一生の宝になっていくと思います。勉強も大切ですが、本当はそこが一番大切です。今は親に作ってもらっていますが、いずれ自分で調理をしていければ立ち、少しでもそういう知識があれば、賢い消費者として正しい選択もできるでしょうし、食事のことも常に、自分の中にあれば、健康な食生活も送れるのではないかと考えております。

K 委員

今、学校での実態は J 委員のお話のとおりだと思いますが、教育委員会としても、学力の向上には、基本的に生活習慣が関連しているということで、「早寝早起き朝ごはん」を推奨して、各学校でも取り組んでいただいているところですが、実態を言いますと、特に朝ご飯を取れない子どもたちに本当に分かってほしい。子どもは理解しても、それを家庭で、保護者が理解して、協力していただくことが、各学校で苦心しているところだと思います。

このアンケートに出てくるのは、平均的に、相対的に出てくるけれども、本当に分かってほしい、実態として捉えてほしい部分は、やはり捉え切れていないのが正直なところだと思うので、いかに一番関心が低い親にしてもらえない、そういう家庭の子どもたちをどうしていくかが大きな課題として捉えています。

B 委員

今、栄養教諭が1人しかいない。県の方針で、各市町村に1名は置きますということですが、31年度に向かって健康都市を目指す。この食育推進計画の策定の中で、その栄養教諭の増員を計画の中に入れるということも、大切なことではないかと思えます。

ある町村の食育推進計画策定を、お手伝いをしましたが、そこには行政栄養士がいなかったのですが、推進計画の中に行政栄養士を配置ということをやった次の年に、行政栄養士が配置されたということもありますので、予算がかかることですが、栄養教諭がいて、モデル校になる。それが甲府市に1人では、とてもモデル校をつくって、食育の推進をするというところまでは手が回らないのではないかと思います。予算がかかるから、入れないと言われるればそれまでですが、栄養教諭を増やすということも、とても大切なことだと思います。

E 委員

具体的に動いている事例として、ご参考までに、他の市町村あるいは他県の公民館や児童館から依頼されて、高校などの外部講師に、土から食育ということで、小さいお子さんから、幼児の親も来ていただいて、高校生まで、土からどんなふうに栽培されているか。その後、その収穫したものをもって、どんなふうに調理をしたらいいかということで展開した事例があります。

そうすると、児童館ですとか公民館の職員の方と人間関係や連携ができますので、自分が一度入ったことによって、その先生方とのつながりができ、公民館等々は、退職した教員の先生方もアシストできる態勢があるところもあります。その中で食ということは、職員さんも戻れば親であったり、お子さんであったりしますから、その連携力の強化によって、そういったことが構築できるという事例を参考までに。

議長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

事務局

先ほど、アンケートについて、たくさんのご意見をありがとうございました。こちらのほうで、また再度検討させていただきますが、設問の数とか、紙面でのアンケートの中では限りもありますので、反映できる部分と、できない部分もあるかと思いますが、できるだけ早い段階で追加の意見がありましたら頂きたいということと、こちらで修正したものを、委員長さんと確認をさせていただく中で発送させていただきますので、その点を改めてご承知いただければと思います。

あと、栄養教諭の数につきましては、確かではないのですが、市では1人だけではなく複数いるということです。また何人いるのか、その辺も情報収集はします。

議長

よろしく願いいたします。他にはございますか。

L 委員

栄養教諭とか、学校教育の中でということもよく分かりますが、私の考えからすると、根本は母親かと思っています。母親、親、家庭。

栄養教諭をどんなに増やそうが、学校でどんなに一生懸命子どもに教育をしようが、それが家庭で反映されなければ、実際にはいかないと思っています。母親にアンケートした方がいいかと思っています。

実際に今、子どもが夏休みに入りました。母親たちは「子どもが夏休みになってやだよね」という会話です。信じられないです。子どもが3食、食事を食べるなんて、子どもを産む前から分かっていることで、私は、前に県立中央病院に勤めていましたが、看護師でありながら、

食事指導ができない。看護師でありながら、子どもが夏休みに入って、「どうする、ご飯？」と言っています。私は、それが悔しいです。

栄養教諭がどんなに話をしようが、子どもが家に帰って、お母さんにそうしてもらいたいとか、子どもが知識を得ても、親がしてくれなければ、まだ自分でできない年齢の子どもっていますよね。

小児科に勤めていた時、まだ自分では食事が作れない。食事指導を子どもが受けても、小学生の間とか、自分ではどうにもできない年齢の子がいます。何度も何度も食事指導をしても、入退院を繰り返す子どもがいて、最後にそのお母さんが子どもに向かって言った言葉が、「あなたがちゃんとしないから、お母さんが怒られるでしょ」ということを子どもに言っています。

「食」って、親であり、父親より母親と思っています。いろいろな統計を見ると、朝ご飯を抜いているのが何%というのが、「え、ほんとにこんなに少ないの？」と思うのが、私の感触です。もっといるはず。

お弁当にコンビニのおむすびしか持ってこないとか、せめて母親が、塩むすびでもいいからむすんであげてというのが食育だと思います。子ども向けの教育もそうですが、親に対して、もっと教育した方がいいかと思います。

B 委員

栄養教諭は、学校で子どもたちだけに食教育をしているわけではなく、それを家庭にも地域にも反映させようとして、学校ぐるみでやっている授業です。まだそういう情報が入っていないということは、栄養教諭さんがそこまで、まだやれていないということです。学校だけやっているということではありませんので、ご理解を頂きたいと思います。『給食だより』がありますが、ああいうものを通して、いろいろな情報が入っていると思います。それを、皆さまがどのくらい読んでいるのか分かりませんが。

L 委員

そこだと思います。読まない。親が読んでいない。もっと言うと、子どもが、お便りを親に出さないのです。

B 委員

そこは置いといて、栄養教諭は、学校としてやっているということをご理解いただきたいと思います。

C 委員

L 委員の言うとおりの、家庭です。けれども、そこが今危ういので、何とかしましょうということで、この食育の問題、知育・徳育・体育のベースになるものを教えていけば、子どもたちは変わり得る。変わった子どもたちに、また家庭にもっていってもらおう。そういうことを期待して、この食育はやっています。これは何回も学校で議論しましたが、来てもらいたいお母さ

んが大体来ないのです。基本は家庭です。

食べ方を、子どもは学んでいきます。それは離乳食から。子どもの問題はもう家庭の問題です。ほうっておくと、ジャンクフードしか食べない子どもが大人になっても、またジャンクフードを食べます。そうなった子どもたちを、何とか教育の場で、食教育をやることによって食習慣を変えていきたい。そういう思いの中で、僕らも今頑張っていますので、ぜひご理解を頂きたい。家庭が基本にあるのは、重々承知しております。そういうお母さんを変えるためにも、学校から、子どもたちから変えていくということは重要だと思っています。

A 委員

この会は、夢と希望と光になればいいと思うので、そういう方向に持っていくように頑張りたいという事ではないでしょうか。

M 委員

食生活改善推進員として一言言わせていただきます。29 地区ありまして、547 名の会員が活動しております。各地区で住人を集めて講習をしますが、来るお母さんたち、お父さんたちが限られてしまいます。親子の教室もやっていますが、今年は郷土食を専門に今年からやりますが、なかなか皆さんが協賛していただくことがなかなかない上に、ここに「食生活改善推進員の名前と活動を知っていますか」というアンケートがありますが、前回の時も、あまりいなかったのです。地区によっては、活動をたくさんしているのに、どうしたら皆さんに浸透できるかということが、今模索しているところです。体に良い食事を取るための情報をどこでというのにも、食生活改善推進員を一言入れていただきたいと思いました。

来ているお母さんは、勉強になり助けられるということになりますが、来ない人に対して、どうした形で参加していただくかを、今から検討していただきたいと思います。食育に関連して、食生活改善推進員の活動を少しでも見直していきたいと思います。

議長

食育というのは、確かに家庭が基本であったはずなのですが、それができなくなったという現実が、この会であるのだらうと思います。そういう意味で、L 委員にお願いしたいのは、周りの同じ学校の P T A の方々にも、いろいろな意味で働き掛けていただいて、いろいろな所に参加していただくようなことをやっていただければありがたいと思います。

他にございませんでしょうか。時間になりましたので、以上をもちまして、本日の議事が終了しました。議長の任を解かさせていただきます。

以 上